

『仲間』を知る チーム・地域医療に欠かせないこと



2年生 新村 糧

長野県 長野西高等学校出身

2年生 山浦しずき

千葉県 市立杉戸高等学校出身

2年生 藤原 真理子

長野県 野沢南高等学校出身

2年生 兼田 俊樹

千葉県 千葉南高等学校出身

今日は、福祉総合学部生と一緒に「福祉論」を受講する2年生4名にお話を伺いました。

薬学部で「福祉論」を受講することについて、どのように感じましたか？

(新村) 最初は、「何で、福祉なの？」って正直思いましたね。大学では、確かに「薬理学」とかクスリについての授業もあるんですが、これまでは主に基礎薬学というか、化学や生物学、生理学などの授業がメインだったので、「クスリ」の前になんで「福祉」なの？って……。

(藤原) そうだよな。私は「福祉」って聞いたなら、「対人支援」のあり方についてについて勉強するのかな？って思ったもん。やっぱり、薬剤師は患者さん相手にしっかりとコミュニケーションはからないといけない職業だし、「福祉論」を学ぶことで他者理解を深めていくことが重要なかなって……。

(山浦) でも授業が始まったら……、千葉県下の各市町村や保健所管区における病院数や病床数、医師や看護師、薬剤師など医療者の数とかがオンパレードで、「住みたいくない市町村ランキング」とかあったりして……、これって「福祉なの？」って正直思っちゃった(笑)。

(兼田) ホント。でも、医療を中心に考えた場合の「住みたい町」って、なんか「いいなあ〜」って思えた。だって、いざって言う時に安心できるし……。

(藤原) そう言えば、大学があるここ山武医療圏は、病院数や病床数、そして医師の数とすくすくない地域なんだね。びっくりしちゃうな〜。

(兼田) えっ、知らなかったの？ 千葉ではこの地域が、「医療過疎地域」って有名だよ！

(藤原) だって私……、長野県民だし……(笑)

(兼田) だから、大学でも「地域医療」って言うてるじゃん！

(新村) でも、地域医療ってよく耳にするけど、具体的にどんなことなんだろうね？ 地域で医療を支えるって言うても、結局、医師の数が少ないことにはなかなか難しいんじゃないのかな？

(山浦) そう言えば、授業の中で「包括ケア」って言ってたよね。医療資源の乏しい地域にこそ、この包括ケアって重要なんだってね。

「包括ケア」と「多職種連携」

(兼田) まだ、十分な理解ができていないとは言えないけど、「包括ケア」って地域の生活者、つまり市民一人ひとりが安心して暮らせる町づくりを目指した。保健・福祉・医療の連携と融合ってことなんだよね。よく高齢者や障害者、難病患者など介助や援護を必要とする人たちが取り上げられがちだけど、本当は市民一人ひとりに関係することなんだよね……。でも正直、あんまりピンと来ないというのが……。

(山浦) そうなんだよね。こういうことって、これまであまり考えたことがなかったけど、これから薬剤師という医療人を目指す私たちにとっては、もっと深く考えなきゃいけないことなんだよね。

(藤原) 大学ではよく、「多職種連携」って言葉をガイダンスとかで耳にするじゃん。あれって、さまざまな医療従事者、医師や看護師、薬剤師なんかがお互いに支援し合って、患者本位の医療を実現させることだと思ってたけど、この「包括ケア」って、まさに「多職種連携」そのものって感じだよな。

(新村) 実は、僕は将来海外で医療に触れてみたいと思ってるんだ。まあ、今はすごく漠然となんだけど……。欧米の比較的進んだ医療もいいなあ〜と感じるし、開発(途上)国や新興国で、新しい医療に取り組むのもいいかなあ〜なんて思っていたから、ある意味この「包括ケアシステム」っていうのは興味深いと感じたんだ。

(兼田) 新村は、そんなこと考えてたの？(笑)

(新村) ホント、漠然とだけだね……。それに、今しか語れない夢かもしれないしね(笑)

(山浦) でも、スゴイな。そういう夢持てるのって。私なんか、具体的な将来なんて……。でも、海外には私も興味ある！(笑)

(藤原) 私は……、地元の長野で高齢者を対象とした仕事に就きたいと思ってるんだ。だから、福祉とかにも興味はあって……

それぞれの将来像を描く皆さんにとって、福祉総合学部の学生との共同作業は、どのような刺激がありましたか？

(山浦) 正直、薬学生である私にとって、「医療」って病院や薬局のカウンターで行われるものだと思ってたから、在宅や自宅療養における医療の役割を考えさせられる、いい機会になりました。福祉総合学部の学生は、さすがに福祉サービスや介護サービスには詳しくて……。こういう多方面のケアがあって、初めて患者さんは安心できるんだなって思いました。

(藤原) そうだよな。例えば在宅医療における薬剤師の役割は、薬物管理、とくにコンプライアンスを維持するための仕事メインだけど、「クスリ」さえしっかりと飲めていれば、患者さんはそれでいいのか？って考えさせられちゃった。私たちは、確かに授業とかでもヒューマンズム教育というか、患者本位の医療について意識はしていたけど、実際に福祉総合学部の学生の話聞いていたら、リアリティーが違ってる言うのか、「本当に患者さんのことを考える」ってことを、改めて認識させられちゃった。

(兼田) 僕のグループにいる福祉総合学部の学生は、本当に患者さんの目線というか、患者さんの気持ちに立った発言が多かったなあと感じた。例えば、「ちょっと調子を崩して引きこもり状態になった片居者

人」を考えた場合、僕たち薬学部生は、「その後、認知症を発生したらどうしよう」とか、「なんとか身体活動量を維持させよう」とか、どちらかと言えば「生理学的視点」で話を進めていたんだけど、福祉総合学部の学生はまず、「独居老人の孤独」について考え始めたから、ちょっと驚きだったよ。独り身の高齢者の孤独感って、どんな感じなんだろう？って……彼が言うには、その孤独は、やがて生きる気力を喪失させていき、それこそが QOL の低下を引き起こす最大の問題なんだって……。認知症とか、治療薬とか……そんなことを最初にイメージした自分が、ちょっと悲しくなっちゃった。

(新村) でも、兼田の考え方は間違っていないと思うよ。だって僕は薬剤師を目指しているんだから……。確かに、最初に患者さんの気持ちというか、これから起こりうる精神状態を察してあげることは重要なことだと思うけど、リスクの高い疾患について、しっかりと予防したり、発症した疾患に対する薬物治療について考えることこそが、僕らが目指す薬剤師の使命なんだからさ！

(山浦) そうだよな。みんなが、患者さんに対して同じアプローチしかできなかったら、それは多職種連携でもないし、チームでもないもんね！

(藤原) お互いが、専門分野という武器を身につけて、それぞれの専門職が互いに尊重し合って、患者さんの病状や生活そのものをハッピーな方向に改善してあげることができればいいんだよね！

(兼田) まあ、なんだかんだ偉そうなこと言っても、まだまだ僕は未熟者なんだけどね……。 (笑)

これからの自分に……

(兼田) 今回、福祉論という授業を通じて「多職種連携」について学んだけど、福祉総合学部だけじゃなく、看護学部や他の学部学生の声も聞いてみたいなって思った。本当は、医学部生とこういう話ができるって一番いいんだけどね。

(山浦) ホントだね。私は、正直あんまり「医療」とか「薬学」とかって、将来の仕事として考える時間を持ってないままに、ここまで来ちゃってる気がしていたから……。このワークショップ形式の授業は、これからの自分探しにすごく意味があったと思う。

(藤原) 私は、おじいちゃんやおばあちゃんが大好きで……だから、将来は地元で高齢者のためになって思っていたけど、高齢者の気持ちを考えるのは当然だけど、その周囲や環境にまで目を届かせなきゃいけないんだなって思えることは、すごい収穫だった。

(新村) みんなもいろいろ感じているみたいだね。この前向きな気持ちって、ホント大事だから、この授業が終わってもいろんなこと考えたり、学んだり、そして行動に移していかなきゃね！まだ先の長い大学生活だけど、いろんな経験して一つずつ身につけていきたいよね！

「遠くの大病院よりも、近くの頼れる薬剤師に！」

超高齢化と国際化が進む日本社会のこれからの地域医療を支えるために、主体的に行動できる薬剤師の輩出を目指しています。

従来の医療薬学のみならず、栄養、福祉、看護・介護、セルフメディケーションなどの幅広い専門知識と国際感覚を有し、あらゆるライフステージにある人々の健康に興味・関心を抱き、人々から信頼される、地域に根ざした薬剤師を養成します。

多職種連携教育 IPE: Inter-professional Education

薬学部では、福祉総合学部と「連携教育」を実施しています。少子高齢社会において、在宅医療の必要性が今後ますます唱えられている昨今、薬学的視点と福祉学的視点を併せ持つ「薬剤師」の育成を目指しています。今後、看護学部も交えた多職種連携教育を行っていく予定です。



山武薬剤師会主催 薬剤師に必要な臨床推論とトリアージの知識

講師：佐仲雅樹 教授（臨床医学研究室）



薬剤師のトリアージ 実践ガイド

視診・バイタルサイン・問診による病態の捉え方

佐仲雅樹 著

「薬剤師の臨床推論スキルアップセミナー」が臨床医学研究室 佐仲雅樹教授を講師に、地域薬剤師と共に、同地区に実務実習に参加している5年生を交えて開催されました。

本セミナーでは、カウンターに来客した患者さんの主訴や症状から、適切なOTC薬の推奨や受診勧奨など、薬剤師にとっての適切な対応について学びました。

2013年度生 募集 大学院 薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程

城西国際大学 入試・広報センター TEL: 0475-55-8855 E-mail: admis@jiu.ac.jp <http://jiu.ac.jp/pharmacy/graduate/index.html>